



■山のかたち—2学期始業式にて—

8月11日は「山の日」でしたね。皆さんは身近な山といわれたら、どの山を思い浮かべますか？私が身近な山として思い浮かべるのは琴引山（標高1,014m・飯南町）です。琴引山は弥山とも呼ばれる霊験あらたかな山で、出雲国風土記にも記述がみられます。山頂の琴弾山神社は大国主命が琴を弾いたという言い伝えもあり、付近にある洞窟は出雲大社まで繋がっていると聞いたこともあります。もちろん真偽は不詳ですが…。私が思い浮かべる琴引山（図1）は、東西に広くそびえる雄大なイメージです。



図1

5年前に飯南高校に赴任した時、校舎から三角の山が見えました。「あの山は何という山ですか？」と聞くと「琴引山です」という答えが返ってきました。その時は自分が抱いていた琴引山のイメージとはあまりにもかけ離れていて、とても同じ山とは思えませんでした。私がイメージしていた琴引山は北側から見た山体でしたが、

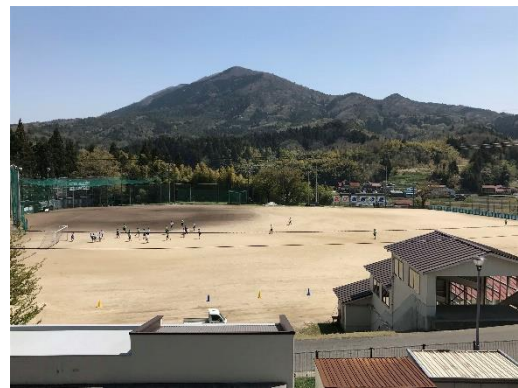


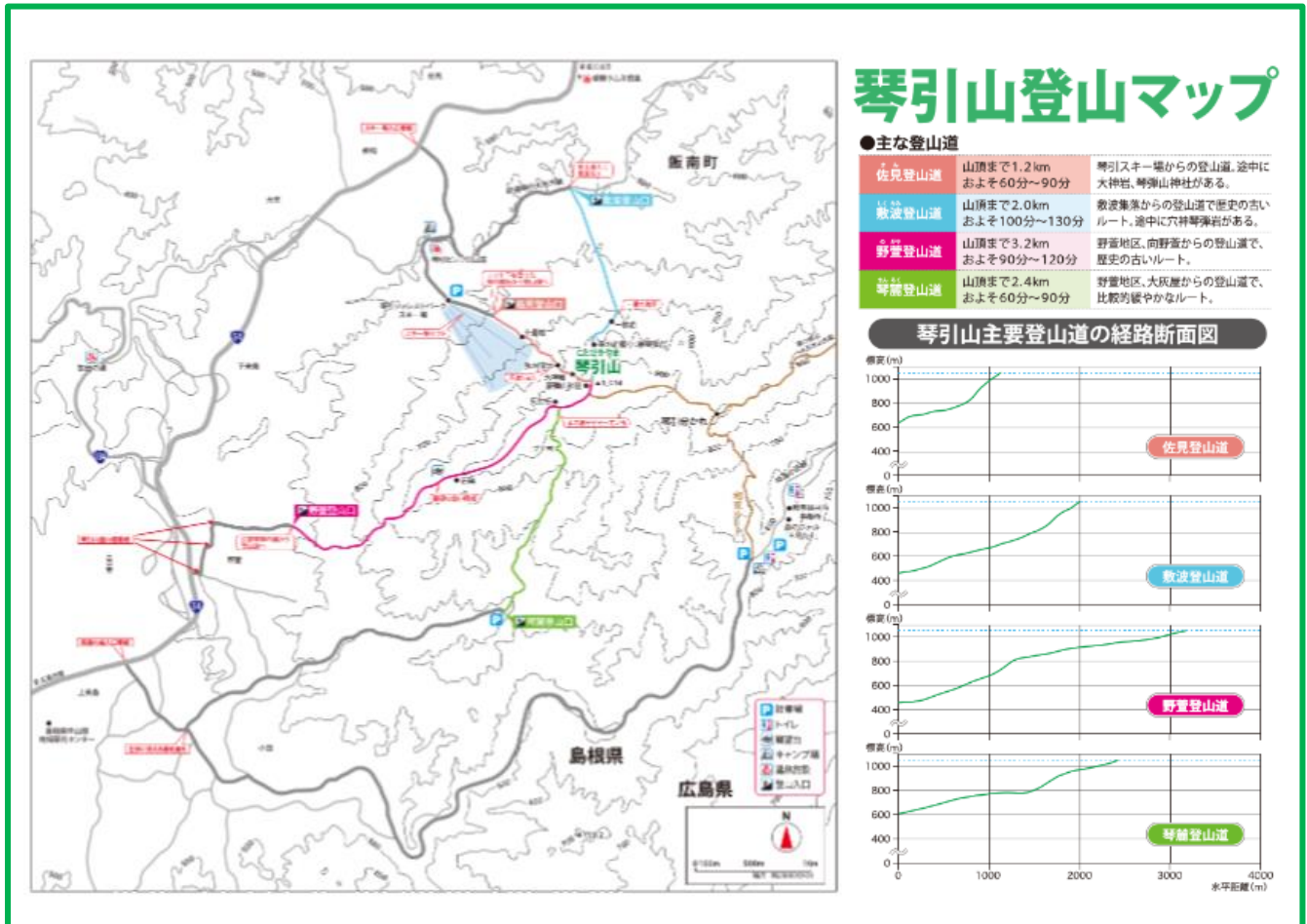
図2

西側から見た山体（図2）は全く違う姿を見せていました。一気に琴引山の印象が変わりました。同じ所から見た山体だけを「琴引山」として認識していた自分の視野の狭さを痛感しました。琴引山としては「一か所ではなくいろんなところから私を見てね」という気持ちだったかも知れません。

小学校の遠足も含め琴引山には数回登ったことがありましたが、改めて登ってみることにしました。登山道は距離や傾斜が異なる4コースがありますが、一番距離が短く傾斜のきつい「佐見登山道」を選択しました。登山中は、上りあり下りあり平坦あり時折階段ありで、ずっと下を見ながら歩きつづける時間帯もありました。空気は爽やかで木々の緑は美しいのですが、目標とする山頂はなかなか見えてきません。1時間ほどしてやっと山頂に到着し眼下にパノラマが開けました。爽快な気分とともに充実感と達成感を感じ、登山道に敷き詰められた落ち葉を見ながら地道に登ってきた苦労が報われた気持ちになりました。山頂では飯南町のマスコットキャラクター「い〜にゃん」も出迎えてくれていました。山頂に来てみないと分からない風景がそこにはありました。

皆さんが目標にしているものは何ですか？どんな目標でも視点を変わると違った風景が見えてくるものです。固定観念にとらわれず、違った角度からとらえ直してみると抱くイメージが変わることもあります。そして、目標へたどり着くためのコースは1つではありません。距離は短くても傾斜がきついコース、距離は長くても傾斜が緩やかなコース。一人一人に適したコースがあるはずです。コースを選ぶ際には、そのコースをたどったことのある人からのアドバ

イスも有効でしょう。多くの情報を参考にしながら、しっかりとした準備をすることも大切です。目標にたどり着くまでの道のりは平坦ではないかもしれませんが、きれいな景色は見えづらいかも知れません。しかし、地道に歩き続ければ必ず目標にたどり着けます。目標にたどり着いたら一気に視界が開けます。その時の爽快さや充実感、達成感を味わえるのは歩き続けてきた人だけに与えられる特権です。皆さんに今見えている山はどの山ですか？



琴引山山頂の様子。
遠方に三瓶山（標高1,126m）も見えます。



新緑の琴引山